

## 圏外のアンテナ

[ウクレレ令和]の巻

広告業界あるあるといえば、連休明け初日のプレゼン。「休み明けによろしく」などといわれて、休日返上でアイデアを考えるのである。

だが、働き方改革の影響か。たまたま、お得意先に恵まれたのか。わたしに限っていえば、今年はそれがなかった。

うれしくなって、長い連休の後半、前から興味を持っていた、ウクレレの練習に取りかかることにした。

動画サイトに首っつけ。慣れない左手の指先で、痛いほど4本の弦を押さえる。ズレていた音が、だんだん整ってくる…。その時なぜか、幼稚園の頃の記憶がヒョイと浮かび上がってきた。

6才の頃、木製の素麺の箱をもらって、お琴を作ろうと思いついた。箱のへりを物差しで計り、1cmごとに鉛筆で印をつけ、キリの先で浅い溝を掘り、15本の輪ゴムをはめていった。

琴柱などない、超シンプルな構造。ところが、高い音向きの輪ゴムはそろっているが、狙った低音が出せそうな、のびた輪ゴムの数が足りない。

親せきや友だちにも協力を要請。しかし低い「レ」の音をピタリと出せる輪ゴムには出会えなかった。

あきらめかけたある日、祖母の家の裏の道路で、敷石の下に埋まっている、のびて汚れた茶色の輪ゴムを発見。ドキドキしながら引き出して持ち帰り、木箱にはめて弾いてみると、探していたまさに「レ」の音がブオォン！と鳴り響いた。

一体、何調だったのだろうか？ 2オクターブをつま弾くことのできる、お手製の弦楽器の完成だった。

オトナたちからは不潔だと大不評。木箱には鉛筆の跡が汚く広がっていたし、輪ゴムはどれも黒ずんでいた。

でも、探し求めていた音を見つけあてた満足感は大きかった。弦楽器の魅力って、音の宝探しなのかもね。

ふと、思い出の琴線をも震わせた、ウクレレ令和。

何だかハマりそうな予感がする。

=2019年5月10日掲載=

